

プーチン大統領年次教書演説（抜粋） 2023年2月22日 スプートニク

尊敬するロシア国民の皆さん！

1年前、我々の歴史的な土地に住む人々を守るため、我が国の安全を保障するため、そして2014年のクーデター後にウクライナで生まれたネオナチ体制による脅威を取り除くため、特殊軍事作戦実施の決定が下された。ドンバスは2014年から戦い、自分たちの土地に住み、母国語で話す権利を主張し、封鎖と止まない砲撃、ウクライナ政府からの露骨な憎しみという条件の下でも降伏せず、ロシアが助けに来てくれるのを信じて待った。

一方、あなた方もよくご存じのように、我々はこの問題を平和的手段で解決するために、本当にできる限りのことを行い、このきわめて困難な紛争を平和的に解決するため、忍耐強く協議を行った。

しかし、我々の背後ではまったく別のシナリオが用意されていた。

今、我々は、西側の指導者たちがドンバスの平和を目指すとした約束が口実であり、残酷な嘘であったことを理解した。（ミンスク合意は時間稼ぎ、とメルケル元首相が証言、マクロンも認める。）

民族主義者の大隊の将校（アゾフ）らは西側の軍事アカデミーや学校で訓練を受け、武器も供給された。

特に強調したいことは、特殊軍事作戦の開始前から、キエフと西側諸国との間では防空システム、戦闘機、その他の重装備のウクライナへの供給交渉が行われていたことだ。

米国とNATOは、我が国の国境付近に自国の軍事基地と秘密の生物学研究所を急速に展開していた。彼らは、将来の軍事行為の演出をマスターし、自分たちに従属させ、自分たちの手で奴隷化したウクライナの政権に大戦争に向けた準備をさせていたのである。

そして今、彼らはそれを公然と、あからさまに、恥じることなく認めているではないか。ミンスク合意も「ノルマンディー形式」も外交的なショーではったりだと言って、まるで自分たちの背信行為を誇り、楽しんでいるかのようだ。ドンバスが燃え、血が流され、ロシアが誠実に（私はこれを強調したい）平和的解決に邁進していた時に、彼らは人々の命を弄んでいたことが明らかになった。

何世紀にもわたって植民地支配、独裁、覇権主義を続ける間に、彼らは何でも許されることに慣れ、世界中を無視するようになった。しかも彼らは自国民までも同じように堂々と軽蔑して扱うことがわかった。自国民もシニカルに騙し、平和を模索し、国連安保のドンバスについての決議を順守しているなどと作り話をし、だまし続けた。実際、西側のエリートは原則を完全に欠いた嘘の象徴と化してしまった。（例：オバマ政権時からノルドストリーム破壊計画 独・露の協調妨害）

我々はオープンかつ誠実に西側諸国との建設的な対話を行う構えだった。欧州も世界全体も、すべての国家にとって平等な安全保障システムを必要としていると主張しつづけ、この構想をともに話し合い、その実現に向けて作業するよう、長年にわたってパートナーらに提案してきた。だが、我々が受け取ってきた反応は、不明瞭か、または偽善的なものだった。これは言葉として受け取ってきた反応だが、具体的な行動もあった。それが**ロシア国境へのNATOの拡大**、欧州とアジアでのミサイル防衛の新たな拠点の創設、つまり「傘」を使ってロシアから遮断すること、そして軍部隊の展開。しかもこれはロシアの国境付近だけにとどまらない。

ここで強調したいことがある。実際、誰もがよく知っていることだが、米国ほど多くの軍事基地を自国の外に持っている国はない。その数は数百に及ぶ。何百もの米軍基地が世界中に、地球のあらゆる場所に点在していることは、地図を見ればすぐわかる。

ドネツク、ドンバス、ルガンスクへの新たな攻撃を計画した者らは、次の目的がクリミアとセヴァストポリへの（ロシア系住民への）攻撃であることを明確に理解していた。我々もそれを知っていた。ところが今、その遠大な計画をキエフも公然と語っている。（ドンバス、クリミア奪還）我々がすでによく知っていたことを彼らは明らかにした。（ロシア系の自国民を虐殺して来たキエフ政権を批判。遠因はレーニン、フルシチョフ）

我々が守っているのは人命であり、自分たちの生家だ。だが西側の目的は無限の権力である。西側はキエフ政権を幫助し、武装させるためにすでに 1500 億ドル（20 兆 2460 億円）以上を費やした。比較のために引用すると、経済協力開発機構（OECD）のデータでは 2020-2021 年、世界の最貧国支援に G7 諸国が割り当てた額は約 600 億ドル（8 兆 983 億円）。実に分かりやすいではないか。戦争のためには 1500 億ドル出すが、いつも面倒をみているはずの最貧国には 600 億ドルで、しかも金をもらう側にはよく知られた服従条件がつけられる。それでは貧困撲滅、持続可能な開発、エコロジーについての話はどうなったのか？ すべてどこに消えたのか？ こうした一方で戦争に注がれる資金の流れは細らない。他国の混乱やクーデターを助長するための資金もまた、世界中で惜しみなく注がれた。（岸田氏ウクライナへ 55 億ドル支援）**日本消滅の危機、最後の首相になる危険性（神は詔う記念対談）「妖怪は自分の実力以上に自分を見せることができれば大成功と考える」（妖怪にならないための言葉）**

人的犠牲や悲劇を考慮する人は誰もいない。なぜなら、何兆ドルという大金が動いているからだ。この先も万人から盗み続けることができる。民主主義と自由を装い、本質的にはネオリベラル主義的、全体主義的な価値観を流布しようとしている。国や民族全体をレッテルを貼り、その指導者を公然と侮辱し、自国内の反対意見を弾圧する。敵のイメージを作り上げることで、人々の関心を汚職スキャンダルから、経済的、社会的、民族間の問題や矛盾の拡大から逸らしている。

ネオナチは、自分たちが誰の後継者であるかということを隠そうとしていない。驚いたことに、西側諸国の権力者は誰もこのことに気づかない。なぜか？ それは、彼らにとってはどうでもいいからだ。ロシアとの戦いにおいて誰に賭けるかはどうでもいい。主な目的は我々と戦わせること、我々の国と戦わせることだから、どんな人間を利用してもいい。事実そうであることを我々は見てきたではないか。テロリスト、ネオナチ、**はげ頭の悪魔**でさえ（神よ、許したまえ）自分たちの言いなりになり、ロシアに対する武器になるのであれば、何でも利用することができる。（ドンバス、クリミアをウクライナに編入したのはレーニンとウクライナ人のフルシチョフ）

我々はウクライナ国民と戦争しているわけではない。このことは今で何度も言ってきた。ウクライナの国民は、キエフ政権とその西側の支配者らの人質となった。西側は事実上、この国を政治的、軍事的、経済的に占領し、数十年にわたってウクライナの産業を破壊し、その天然資源を略奪した。その論理的帰結が社会の退廃、貧困と不平等の爆発的な増加だ。

人々のことなど誰も考えず、人間を破滅のために準備し、最後は消耗品にしてしまった。痛ましく、語るのも恐ろしいことだが、これは事実である。

ウクライナ紛争を煽り、拡大させ、犠牲者を増やした責任は、すべて西側エリート、そしてもちろん、キエフの現政権にある。この政権にとってはウクライナ国民は本質的に他人だ。ウクライナの現政権は自国の国益のためではなく、第三国の利益のために奉仕している。（マイダン革命で親露派ヤヌコビッチを追い出したのは米国）

西側のエリートは自分たちの目標を隠そうともしていない。彼らははっきりと「ロシアに戦略的敗北」を与えるのが目標だと言っている。つまり、彼らは局所的な紛争を世界的な対立の局面に転化させるつもりなのだ。だが彼らは戦場でロシアに勝つことは不可能だと認識しているため、我々に対してますます**情報攻撃（米国のシンクタンク ISW 戦争研究所）**を仕掛けている。彼らが標的はもちろん若者たち、若い世代だ。そしてここでも

彼らは終始嘘をつき、史実を歪曲し、我々の文化、ロシア正教会、我が国に昔からある、他の宗教組織への攻撃を止めようとしなない。

彼らが自国の民に何をしたかを見てほしい。家族、文化、国民のアイデンティティを破壊、(性的)倒錯、児童虐待、小児性愛に至るまでがノーマルなことだと宣言され、聖職者、神父は同性婚を祝福するよう強制されている。西側世界の何百万人もの人々が、自分たちが正真正銘の精神的破局に導かれていることに気づいている。はっきり言ってエリートたちは気が狂っており、もう手の施しようがないようだ。それでも、これは彼らの問題であり、我々がすべきことは子どもたちを退廃と退化から守ることだ。

多民族国家である我々の国民の絶対的多数が、特殊軍事作戦について、我々の行動の意味を理解し、ドンバスを守るための行動を支持したことを私は誇りに思う。このような支持にまず現れたのは真の愛国心だ。この気持ちは我々の国民に歴史的に内在する。

親愛なる友人の皆さん、ロシアのすべての人々の勇気と決意に感謝したい。我々の英雄、陸海軍の兵士と将校、ロシア親衛隊、特務機関、すべての治安維持機関、ドネツクとルガンスクの軍部隊の戦士たち、ボランティアたちにありがとうと言いたい。(自衛隊に感謝の意を公表できない日本のリーダー達)

ドネツク、ルガンスク両人民共和国、ザポロージェ、ヘルソン両州の住民に特別な言葉を贈りたい。親愛なる友人たち、あなた方自身が住民投票で自分たちの将来を決め、断固とした選択をされた。ネオナチの脅威や恐怖にさらされ、間近で戦闘行為が行われていたにもかかわらず。ロシアと、自分の故郷とともにあるというあなた方の決意ほど何にも増して強いものはかつてなかったし、今もない。

我々は、これらの新しいロシア連邦の構成体の社会経済の復興と発展のための大規模なプログラムをすでに開始しており、今後も拡大していく。クリミアの道路は今やロシア全土とつながる安心できる陸路となった。我々は共に尽力し、必ずやこれらの計画をすべて実行する。

今日、ロシアの各地域はドネツクおよびルガンスク両人民共和国、ザポロージェ、ヘルソン両州の市町村に直接的に支援しており、実の兄弟姉妹のように誠実にそれを行っている。今、我々は再び一緒になった。これはつまり、我々はさらに強くなり、我々のこの土地に待望の平和を取り戻し、人々の安全を確保するためにすべてを尽くすということだ。そのために、先祖のために、子どもや孫の未来のために、歴史的正義の回復のために、民族の統一のために、今日も我々の英雄たちは戦っている。

私がすでに述べたように、西側は我々に対して軍事のおよび情動的な戦線だけでなく、経済戦線も展開した。しかし、どこにおいても何も達成されなかった。そして達成されることはないだろう。さらに、制裁の提唱者たちは自分で自分を罰している。自分たちの国で物価上昇、雇用喪失、事業閉鎖、エネルギー危機を扇動し、自分たちの市民にすべてロシア人が悪いと言っている。我々はそれを耳にしている。

ロシアの経済と行政は西側諸国の予想を遥かに超えて強固なものだった。

ロシアのビジネスは、責任感がある予測可能なパートナーとの物流関係を強化した。そのようなパートナーはたくさんおり、世界ではそのようなパートナーが多数を占めている。

我々の国際決済に占めるロシアルーブルの割合は2021年12月比で倍増して3分の1となり、友好国の通貨と合わせるとこれはすでに半分以上を超えていることを指摘したい。今後もパートナーと共に、ドルやその他の西側の準備通貨から独立した安定かつ安全な国際決済システムの形成に取り組んでいく。(金本位制に移行?)

ソ連崩壊後、第二次世界大戦の結果を修正し、わずか一国しか主(ヌシ)が存在しない米国型の世界を築こうと

したのは、まさに彼らである。そのために、第二次世界大戦後に作られた世界秩序の土台をすべてあからさまに破壊しはじめた。ヤルタとポツダムの遺産を否定するために、既成の世界秩序を徐々に修正し始め、安全保障と軍備管理のシステムを解体し、世界中で一連の戦争を計画し、実行に移したのだ。(この演説で広島・長崎の原爆は必要なかったと語ったとの解説もある。ノルマンジー上陸記念式典でのオバマとブーチンの違い)

最初の戦略核兵器削減条約 (START) は、もともとソ連と米国が 1991 年に締結したもので、緊張が少なく相互信頼があったが、根本的に異なる状況 (英、仏も核保有) にあったことを無視することはできないし、特に今日においては、無視してはならない。その後、露米関係は、もはやお互いを敵とはみなしていないと宣言するレベルにまで達した。素晴らしい。全てが非常に良好だった。

2010 年に発効した条約には安全保障の不可分性や、戦略的攻撃兵器と防御兵器の直接的な関連性についての重要な条項が含まれている。これらすべてはとうの昔に忘れ去られている。米国は弾道弾迎撃ミサイル制限条約を脱退しており、ご存じのようにすべて過去のことになっている。非常に重要なことだが、我々の関係が悪化したのは完全に米国の「功績」(ワルシャワ条約機構が消滅したのに NATO は残っている) である。

もちろん、世界の状況は 1945 年以降、変化している。発展と影響力の新たな中心が形成され、急速に発展しつつある。これは自然で客観的なプロセスであり、無視することはできない。しかし、米国が自国の自己中心的な利益のためだけに、世界秩序を自分たちの都合のよいように作り変え始めたことは、受け入れがたいことだ。

今、彼らは NATO の代表らを通じてシグナルを送っている。事実上、我々に最後通牒を突きつけているのだ。お前たちロシアは START 条約をはじめ、合意したことを無条件に実行せよ。我々のほうは好きなように行動する。彼らは我々に戦略的敗北を期させようとしており、我々の核施設に立ち入ろうとしている。これに関して今日、私はロシアは戦略兵器削減条約への参加を停止すると言わざるを得なくなった。繰り返すが、ロシアは条約から脱退するのではない。参加を停止するのだ。(最初の TART と核の保有国の環境が違っている)

彼らは今、自分らの声明でこのプロセスへの参加を申請したのだ。我々も反対しない。ただし平和とデタントの覇者の役割をきどって、再び皆に嘘をつこうとしないほしい。我々は、すべての背景を知っている。米国の核弾頭は種類によっては戦闘行為で使える保証期限が切れていることも知っている。このため、ワシントンの一部の人は、本当に核兵器の発射実験を行う可能性を検討中だという情報をロシアはつかんでいる。しかも米国が新しいタイプの核弾頭を開発しているという事実をふまえている。

こうした状況の中でロシア国防省とロスアトム (国営原子力企業) はロシアの核兵器実験の準備を確実にしなければならない。もちろん、これは我々が最初に行うのではない。米国が実験を行うのであれば、我々も行う。世界の戦略的均衡が破壊されるような危険な幻想は誰も抱いてはならない。

今日、私たちは複雑で容易ではない道を共に進み、あらゆる困難を共に乗り越えている。それ以外はありません。なぜなら、我々は偉大な先祖を手本に育てられ、代々受け継がれてきた彼らの誓約にふさわしい存在でなければならないからだ。我々は、祖国への献身、意志、そして団結のおかげで前進するのみだ。この真摯な支援、団結、相互扶助に感謝します。これは誇張ではない。

ロシアはどんな困難にも立ち向かう。なぜなら、我々は皆、ひとつの国、ひとつの偉大な、団結した国民だからだ。我々は自分たちに自信があり、自分たちの力を信じている。真実は我々のものだ。